

中国「旧満州開拓団」墓地



中国東北部・黒龍江省に、敗戦の混乱で命を落とした旧満州開拓団員を弔う墓地がある。日本人のために造られた中国唯一の公営墓地だ。傷みが激しいため、地元の自治体が補修工事を進め、日本でも募金活動が始まるなど関心が高まっている。ちょうどアジア重視を掲げる民主党政権が誕生。関係者は鳩山由紀夫首相の同墓地参拝実現に向けた運動も始めている。(外報部・五味洋治)

墓地は、省都ハルビンから車で三時間ほどの方正県にある。戦後、旧満州で飢えや病気により亡くなった約四千五百体の日本人の遺骨が発見された。故周恩来首相の後押しで、同県政府が一九六三年、三・三の墓碑を建立。周辺を墓地として整備、管理してきた。二〇〇五年、日本側で「方正友好交流の会」(東京都千代田区、大類善啓事務局長)が発足し、方正県と幅広い交流を行っている。墓は、今年公開された記録映画「嗚呼 満蒙開拓団」(羽田澄子監督)でも取り上げられ、広く存在が知られるようになった。しかし四十年以上が経過して納骨部分に漏水が起き、周囲の植栽や垣根なども修繕が必要となった。経費は、日本で約六十万円かかる見通しだ。

「友愛」に応え 首相訪問を



修繕機に日本の団体申し入れ

地元の人たちが管理している黒龍江省方正県の公営日本人墓地「大類さん提供

ほしい」との要請書を送った。日本の首相が、方正県に来て感謝の言葉を述べ

ば、両国関係発展の土台になる(大類さん)ためだ。中国の女性と結婚し、方正県に住む吉岡宏幸さん(三七)「広島県出身」も「日本人の墓を守ってくれている親日的な中国人がいる。それを多くの日本人に知ってほしい」と、鳩山首相の参拝に期待を寄せた。

故周恩来首相建立後押し 40年経過し老朽化

方正県外事弁公室の王偉 新さんは「われわれが日本人の墓を建て、守ってきたのは友愛の心からです」。募金は十分集まっていないが「不足分は県政府が負担する予定」と話す。方正友好の会も最近、十万円を贈った。 一方で九月十四日、鳩山首相側に「中国を訪問する機会に公墓も参拝して

大類さんらは「修繕費用は本来、旧満州に開拓団を送った日本政府が負担すべきだ」として、外務省に支援を申し入れ、同省も前向きに対応している。